

校内研究便り

国立第二小学校A部会

令和3年4月14日

No.1

昨年度の研究主題は、

研究主題 「健康でたくましく、目標をもってやりぬく子供の育成」
～体育授業モデル・体力向上カリキュラムづくりを中心にして～

としました。

1. 研究主題設定の理由

学校は学びの場であり、その主体は子供である。子供は学習や生活など、様々な教育活動に主体的に関わりながら目標達成や課題解決に向けて活動し、生きるために必要な資質・能力(生きる力)を身に付けていく。

本校では、生きる力として学習指導要領に示された「未来を切り拓くために必要な資質・能力」を教育目標(つよく・かしこく・あたたかく)の育てたい子供の姿とし、全ての教育活動において子供の主体性を生かした学校づくりを進めている。

本年度は、昨年度までの研究成果を踏まえ、教育目標「つよく」(健康でたくましい子・目標をもってやりぬく子)を重点目標とするとともに、教育目標「つよく」の目指す子供の姿を研究主題とし、その具現化を図る。

昨年度から校内研究を体育科で行っていましたが、社会情勢を鑑みて研究授業ではなく、授業実践の様子を、単元を通して撮影し、発表会という形にして取り組みました。

今年度は、若手の先生方(1年次～4年次)も増え、更に指導力を高めていく必要があると思います。自己の課題を明確にして、研究主題を意識しながら自主的に教材研究を行っていく校内研究にしたいと考えています。

指導要領に基づき、体育的な見方・考え方を働かせながら、友達と対話をすることによって、自分の考えが変容していく児童の育成を目指したいと思います。

2. 教育目標の観点から

本校の教育目標は、以下の3点である。

知	かしこく	意欲的に学ぶ子	よく考え表現する子
徳	あたたかく	仲間と共に成長する子	全ての命を大切にする子
体	つよく	健康でたくましい子	目標に向かってやりぬく子 重点目標

本校の教育目標の具現化を図るために、研究主題を

「健康でたくましく、目標に向かってやりぬく子供の育成」

～働かせる体育的な見方・考え方を明らかにした授業づくり～

と設定した。

3. 研究の過程と今後の研究

本校では、基本的な方針である「体育的な見方・考え方」を明らかにしていく。また、1教科にこだわらず、

どの教科においても見方・考え方は大切になるため、専科やプラタナスの先生方には、その視点で一緒に研究していただけると幸いです。

4. 本校の児童の実態から（昨年度）

※コロナの影響により、十分に実施できなかった「体づくり運動」「表現運動」「水泳」については、省かせていただきます。

《器械運動》

1年：鉄棒では、「つばめ」に苦戦する児童もいれば、逆上がりができる児童もいて、得意な児童と苦手な児童の差が大きいことが課題となった。跳び箱やマットは意欲的に取り組んでいた。高い段に挑戦したいなど、意欲的であった。

2年：マット運動と鉄棒では、新しい技に進んで取り組んだり、友達同士で助け合ったりしながら活動をしていた。しかし、できない技に対して、どのようにすれば上手くいくのかという思考が深まらないままになってしまったことが指導者の課題として残った。跳び箱では、開脚跳びをできるようにするため、易しい場の設定を行うなど、工夫をした指導を行った。段階的に取り組むことで、跳べるようになる児童が増えた。

3年：跳び箱では、得意な子と苦手意識のある子に分かれていた。

特に苦手な子は、跳ぶことをためらってなかなか参加できない子もいた。

4年：跳び箱では、お手本動画を見てから実践することで、各競技のポイントを意識しながら活動できた。活動では、二人一組で目当てにそったアドバイスをし合いながら行った。そうすることで、励ましあいや褒めあいもできるため、意欲が高い児童が多かった。技能面では、跳び箱やマット運動に関しては、4年生の学習内容までできる子が半数いた。鉄棒に関しては、各クラス1/4程度であった。

5年：跳び箱運動では、3人1組をつくりグループで学習を進めた。各技のポイントを提示し、そのポイントをもとに友達とアドバイスを出し合うことができた。アドバイスの仕方や励まし方、振り返りの話形を学習カードに記しておくことが効果的であった。また、3人というグループの人数も効果的であった。振り返りの時間を確実にとることで、次の時間のめあてが明確になり、児童が主体的に取り組むようになった。

6年 めあての持ち方や友達同士の声のかけ方は、教えることができるようになってきた。

《走・跳の運動》

1年：折り返しリレーを数回行った。楽しんで取り組んでいた。コーンを回るときに大きく膨らんでしまう児童も多かった。勝敗にこだわりがある児童もいたが、全体的には楽しんで取り組めた。

2年：ドンじゃんけんやケンパー跳び、折り返しリレーなどの授業実践を行った。伸び伸びと体を動かす楽しさを味わえるような運動遊びとなったが、実践が少なく、場の設定や遊び方の工夫については課題が残った。

3年：走り幅跳びでは、記録を目指してどの子も意欲的に取り組んでいた。

4年：ハードルでは、ペアでアドバイスをしながら進めた。技能面では、ほとんどの子供が、手の振り方や姿勢、助走などを意識して実践できていた。スピードよりも、フォームを重視して行った。

5年：ハードル走では、跳び箱運動同様に3人1組で学習を進めた。クロムブックのカメラ機能が効果的であった。体育の時間以外でも積極的に使用することで、操作に手間取ることなく活用することができた。跳び箱運動では各技のポイントをはじめに提示したが、今回はあえて提示せず、まず児童に体験させてみてからポイントを出させた。はじめは難しかったが、何回か繰り返し行っていくことにより、児童は自分たちでポイントを見つけられるようになってきた。しかし、時間がかかる・・・

6年：走り高跳びで、タブレットを活用したときに思っていたよりも効果的に子供たちが活用していた。

《ゲーム・ボール運動》

1年：しっぽ取り鬼では、回数を重ねるにつれて、チームで作戦を工夫する姿が見られた。楽しく取り組むための作戦を考えるなどを中心にしたクラスもある。

2年：鬼遊びでは、実践発表を行った。良い動きを共有したり、動き方に気を付けるように声掛けをしたりする

ことで、児童が主体的となり、どのような作戦をしたら良いか、チームで協力して活動することができていた。負け続けたチームへの対応や、チーム編成、授業内容が時間外になってしまうことが課題となった。

3年：キックベースでは、勝ち負けにこだわり、勝負を受け入れられない子がいた。

4年：ティーボールでは、チームで作戦を立てたり、練習をしたりして実践した。練習を重ねるごとに、ボールを遠くへ打ったり、ポジションを工夫したりすることで、接戦になる試合が増えた。ボールを斜め上に打つ動きに関しては、ソフトボールチームに入っている人以外は練習が必要である。

5年：実施せず

6年：分かりません

5. 分科会メンバー

分科会	研究推進委員会	先生方
低学年分科会		1年生・2年生・養護・プラタナス
中学年分科会		3年生・4年生・音楽・プラタナス
高学年分科会		5年生・6年生・図工・プラタナス

今年度の講師の先生

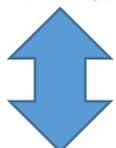
講師： あきる野市立 増戸小学校 主幹教諭

※6月と10月の研究授業に来ていただきます。

6. 今後の予定

4月14日（水）今年度の研究についての確認

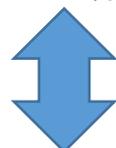
4月28日（水）指導案検討日（高学年）



この間に適宜指導案検討を行う。当日の役割分担も決めておくと思えます。

6月 18日（金）第1回 研究授業 高学年

6月 9日（水）指導案検討日（中学年）



この間に適宜指導案検討を行う。当日の役割分担も決めておくと思えます。

7月27日（火）指導案検討日（中学年指導案完成 指導課に送付完了）

9月15日（水）第2回 研究授業 中学年 ※市教委訪問

8月24日（火）指導案検討日（低学年）



※夏休み中に、本時をどこに持っていか、また単元について勉強するとよいと思えます。

この間に適宜指導案検討を行う。当日の役割分担も決めておくと思えます。

10月22日（金）第3回 研究授業 低学年

※3学期に、「1年間の指導の振り返り」「各分科会からの発表」の日程を組んでいただく予定です。

それらを通して、A部会で次年度に向けて再度検討していきたいと思えます。